



舞台に立てるよろこび 公民館等まつり 【3月7日@総合市民会館】



動画配信で
日頃の成果を見て欲しい。

①はじけるダンスは、「ダンスサークルABEATクラブ」。エレメンタリークラスⅡの「RAIN ON ME GET OUT MY HEAD」。②勇壮な「亀居城太鼓」を舞い終え、ピシッと決まりました。③舞台の様子を撮影し、動画配信中です。④「ダンスサークルABEATクラブ」クラシックバレエの「眠れる森の美女」から「フロリナ姫」のヴァリエーション。



3月6日、7日の2日間にわたり総合市民会館で開催された「公民館等まつり」。総合市民会館、大竹会館、栄公民館で活動している17の生涯学習グループが出演しました。

昨年は、新型コロナウイルスの影響で開催されず、日頃の練習の成果を発表することができませんでした。

今年は、合同開催ということで総合市民会館のホールに、各団体が出演時間に合わせて集合します。感染症対策として無観客で行われ、その模様を撮影し動画配信。

栄公民館の「栄コーラス」で指導している落合由美さんは「無観客とは言え、カメラがあると思うと緊張しました。こういう形であつても発表する場ができて良かったと思います」と舞台上に立つことがモチベーションになると話してくれました。

『公民館等まつり』はYouTubeで配信中です。QRコードから視聴してください。

⑤「ダンスサークルABEATクラブ」ステップⅡクラスは、小学1年～4年生。「ステップ!!」の曲に合わせてステップを踏みます。⑥栄公民館の「大正琴」のグループは、「見上げてごらん夜の星を」を演奏。⑦メリハリのある動きを見せる「太極拳エンジョイ」。⑧眼光鋭く「白雲の城」を舞います。⑨東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌い上げる「栄コーラス」の皆さん。⑩無観客でも高らかな歌声。⑪鮮やかな衣装は、「県民謡福田教室」の皆さん「恋千鳥」の舞い。⑫熱唱!「人生(みち)」。

栄公民館の「太極拳エンドレス」の扇を使った演技。

栄公民館が優秀館に 文部科学大臣表彰



表彰状と盾を手にした今津さん(左)と村井さん(右)

4月1日(木)アゼリアおおたけ 全館オープン

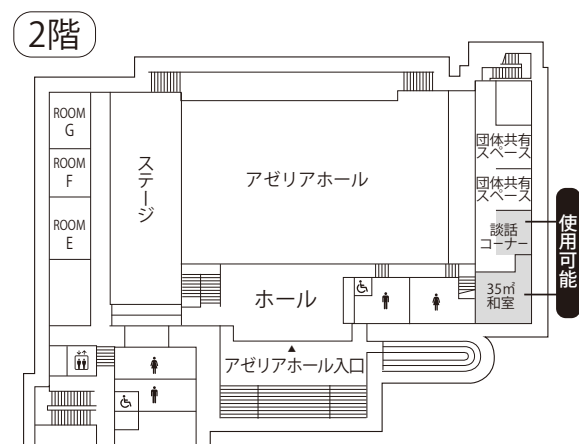
問い合わせ
大竹会館 ☎53 222 6

駐車場の整備工事も完了

2月15日から大竹会館新築棟本館、アゼリアホールの使用を再開しましたが、駐車場など施設の一部を使用制限していました。

4月1日(木)から使用制限を解除し、アゼリアおおたけ2階部分(アゼリアホール側)の使用ができるようになります。

また、平面駐車場の整備工事も終了しましたので、来館者用駐車場は100台(平面69台、屋内駐車場31台)となります。引き続き、アゼリアおおたけをご利用ください。



屋内駐車場出入口の変更

4月1日(木)から屋内駐車場の入り口を平面駐車場側から進入するよう変更します。これまでの入り口は出口専用となります。屋内駐車場を利用の際は、十分気を付けてください。

総合市民会館3階の 利用方法変更

音楽室・軽運動室が個人利用できます。

問い合わせ
生涯学習課 ☎53-6677

4月から総合市民会館3階の勤労青少年ホームが、中央公民館に変わります。これに伴い、音楽室と軽運動室は個人で利用できるようになりました。談話室は、各種団体の方も有料で利用できるようになります。

室 名			使用料 (1時間/円)
音楽室	団体使用		880
	個人使用	中学生以下	30
		その他	100
軽運動室	団体使用		770
	個人使用	中学生以下	30
		その他	100
談話室			440
集会議室			660
料理講習会			440

平和と環境をテーマにした 『さかえサイクリング探検隊』を評価

2月25日、栄公民館の1室に設けられたスクリーンとパソコン。リモートで行われた『第73回優良公民館表彰』の授賞式の模様が映し出されています。これは、栄公民館が全国65館の優良公民館の中から選ばれた6つの優秀館の1つとして、文部科学大臣表彰を受けたものです。平成30年と令和元年の夏休みに、小学生を対象に行った『さかえサイクリング探検隊』の事業が主に評価されたということでした。この事業は、地域の各種団体や地元企業、警察市などが連携して行ったもので、自分たちの町を自転車で行った。1年目は『平和』、2年目は『環境』というテーマで取り組んだものです。



令和元年8月5日の『さかえサイクリング探検隊』。東栄の工場地帯を走りました。

まず自転車の安全な乗り方を実地で学んでから出発。栄地区を巡り、旧海軍潜水学校の遺跡などの歴史に触れたり、企業の太陽光発電や市の下水道処理施設などを見学したりした後、その成果を冊子にまとめたユニークな事例として認められました。それぞれのテーマは「地域の持続可能性を高めるSDGsの要素も盛り込まれたものとなっている」などの審査コメントも寄せられており、時代性も兼ね備えた事業といえます。

事業を担った団体の一つで、子どもたちの見守り活動や青少年の健全育成活動をしている「栄町を明るくする会」の会長を務める村井正雄さんと、公民館職員の今津昌子さんは「参加した子どもたちの喜びの声を聞いたのがうれしかったです。今後とも3世代が交流できる活動が続いていきたい」と声をそろえます。

昨年は新型コロナウイルスのため、この事業は断念しましたが、「今度は、気候のいい秋にやってみよう」と継続していく意欲も見せてくれました。

「来館者がこの受賞を喜んでくれます。そう言って今津さんは頬を緩めます。」

(取材 企画財政課)

コロナ禍のニューヨークの暮らし ありふれた日常の大切さ

YURIKO MIYAKE
玖波公民館『学びのカフェ』で講演



3月13日、大竹市出身のダンサー、三宅由利子さんが、新型コロナウイルスの感染が拡大するニューヨークでの経験を「ニューヨークと故郷と私」今だから伝えたいことと題して玖波公民館で講演しました。

外出もままならない状況下、アジア人だということで、地下鉄車内で感じた差別的視線。爆発的な感染で閉ざされた街で果ごもりの暮らし。遠く離れたかけがえのない家族との絆。今できることを精いっぱいにつけてきたこと。帰国して実感した「ありふれた日常を心の宝箱に敷き詰める」そんな日々の大切さを話してくれました。



講演会の動画は、玖波公民館フェイスブック(QRコードで検索)から視聴できます。